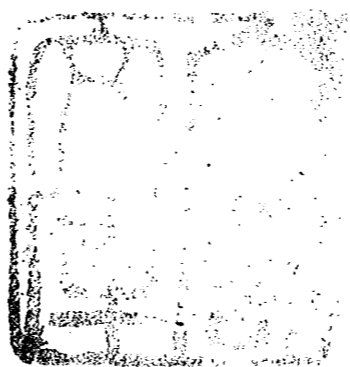


内閣文庫	一冊
八一九三二号	
和書	



序 大東亞國土計畫と共榮圏の建設

大東亞戦争が建設戦争であるといふことは、すでにわれわれは何回となく聞かされたことである。戦争の形も、第一次歐洲大戦の時から全く姿を一變して、いはゆる國家總力戦といふ形をとつてきた。ナポレオン戦争の頃までは、まだ傭兵制度があつて、戦闘に勝ちさへすれば、それで戦捷の光榮にも浴することができたのであるが、今の戦争では、どんなに戦闘に勝つてゐても、そのみでは最後の勝利を得することはできない。第一次世界大戦においてドイツが敵軍をしてその國土に一步も觸れさせなかつたにもかかはらず、遂に敗戦の憂目を見たのは銘記すべき他山の石である。すなはち、近代戦は生産力の戦ひであり、團結力の戦ひである。武力を中心として、一國の持つ政治・經濟・思想・文化の綜合的國力を、いかに強力

序

一